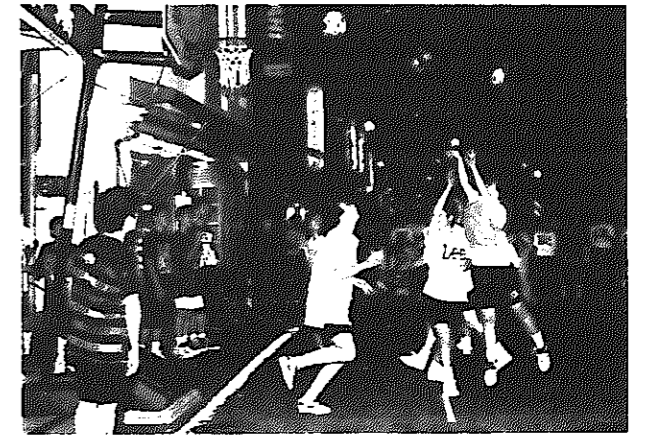


八月二十八日の夜、桜町町内の路上で、スリー・オン・スリーの大会が開かれました。これは、桜町青年会がお諏訪祭りを盛り上げようと今年初めて企画したもの。市内外から十六チームが参加し、熱戦を繰り広げました。

スリー・オン・スリーとは三人対三人のバスケットボール。コートは通常の半分で、ゴールも一つ。攻守が激しく入れ替わるため、スピードのある展開が魅力です。

チームワークが大切なこの競技。選手たちは声を掛け合いながら、ロングシュートなど素晴らしいプレーを続出。詰めかけた観衆からたくさんの拍手を浴びていました。

夜のまちで大熱戦 桜町青年会スリー・オン・スリー大会



黒竜江省の農業事情を聞く 新大留学生 賈曉航さん

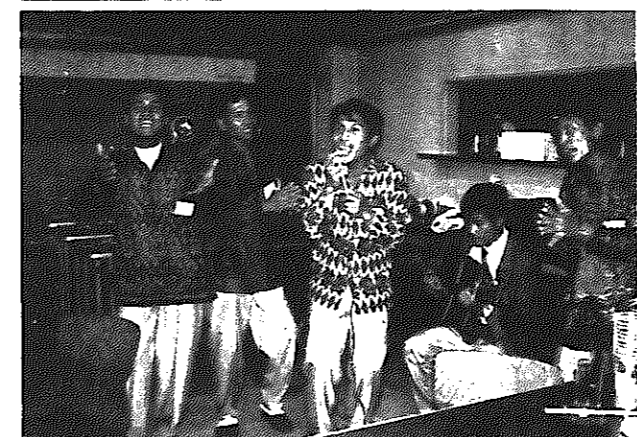
中国黒竜江省の農業事情についての講演が、八月二十六日、農業会館で行われました。講師を務めたのは黒竜江省科学技術情報研究所員で、新潟大学農学部留学中の賈曉航さん。六月から市内の農家で技術研修を続けています。

この日は農業関係者ら約五十人が参加。賈さんの滑らかな日本語に耳を傾けました。「中国は経済振興のため、人材育成に力を注いでいる。たくさんの知識を吸収し、国のために役立ちたい」と締めくくった賈さん。参加者は「ひたむきな姿に感動した。国際化にも目を向けながら、足元の農業を見つめ直したい」と話していました。

夏休みも終わりの八月三十日、三十一日の二日間、理科教育センターで「植物の名前を調べる会」が開かれました。この会は、採集した植物、岩石などを図鑑を使って調べるもの。宿題用の標本を抱えた約六十人の親子連れが参加し、夏休み最後の追い込みをしました。

旅行を利用して集めた標本は何十種類もあり、調べるのはかなりの難作業。特に植物は似ているものが多く、参加者の頭を悩ませます。花びらの数や葉のギザギザを手掛かりに調べますが、なかなか分からず、危うくさじを投げそうになる親も。子供に促されて、図鑑にらめっこを続けていました。

親子で宿題に汗 植物の名前を調べる



白根は果物がおいしいね インドネシア農業研修生

インドネシアの五人の農業青年と白根国際交流協会との交換会が八月二十六日、白根児童公園で行われました。研修生たちは四月から十一月まで、県内各地で米や野菜、花などの農業技術研修をしているもので、本市には八月十六日から二十七日まで滞在。この日は白根最後の夜を楽しみました。

交換会ではまず研修生が自己紹介。白根では「桃やブドウがおいしかった」と、果物のおいしさが印象に残ったようでした。会の途中で雨が降り出し、青年教育センターに会場を移動する一幕も。母国の歌を披露する彼らに、参加者の温かい拍手が続いていました。

新飯田スポーツ少年団は地域ぐるみの活動が評価され、七月五日、日本生命財団から六十三万円の活動助成を受けました。柔道、剣道、野球に取り組み同少年団は、早速バックネットと剣道打ち込み台を購入。練習にも熱が入ります。関係者は「今までバックネット代わりに卓球の防球ネットを使うなど、苦心して活動してきた。助成を受けたことで、子供たちの意欲が目覚ましくなった」と喜んでいました。

同財団は毎年、助成活動をしており、青年教育センターでは「せっかくの制度なので、一生懸命活動している団体を、来年度以降も推薦したい」と話しています。

健全育成で施設整備 新飯田スポーツ少年団



沖新保パワーは健在だ 沖新保保育園 おみこし行進

八月二十七日、沖新保保育園の園児たちが自作のおみこしを肩に、道湯、沖新保の集落内を練り歩きました。

同保育園では、昨年十三人いた園児が今年は七人に減少。それでも変わらない沖新保パワーを見せたいと、六月ころからおみこしを作り始めました。おみこしはすべて手作り。プリンなどの容器などを上手に廃品利用しています。

黄色い法被に身を包んだ園児たちは「わっしょい、わっしょい」と掛け声を上げながら、神社を目指して行進。元気な声を聞き付けて、道端にたくさんの人たちが姿を見せ、声援を送っていました。

知っているようで意外に知らない、市内の施設を見学しようという「ぐるり白根」。夏休みも終わりに近づいた八月二十七日、小学生など十人余りが参加しました。見学地は市の施設のほか、亀田製菓白根工場やJA白根市の桃選果場など。この日は台風の影響で、昼前から激しい雨に見舞われ、一部予定した見学ができず、少し心残りの施設巡りでした。

選果場では桃の出荷で大忙し。真っ赤な大玉の桃に、子供たちは思わず「おいしそう」「食べていいよ」と差し出された桃を、ガブリと口にした子供たちは、最高の笑顔を見せていました。

夏休み、親子で施設見学会 ぐるり白根



現代社会へ率直な意見 青少年健全育成市民大会

八月二十日、カルチャーセンターで青少年健全育成市民大会が開かれました。これは青少年の健全育成運動を市民全体で推進しようというもの。自治会代表者や学校関係者、中学生など約二百四十人が出席しました。

大会では、健全育成や体育活動の功労者として白根柔道教室ら六団体と二十二人を表彰しました。

その後「少年の主眼三市中蒲原郡地区大会」へ出場する本市代表の遠藤真美さん(庄瀬中)、松沢美智子さん(一中)、横山あゆみさん(北中)が本番を前に意見発表。中学生の視点から、現代社会に対して率直な意見を述べました。